
うたかたの恋

倅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うたかたの恋

【Nコード】

N5695A

【作者名】

倅

【あらすじ】

少しだけ早とちりな私がした、切ない恋…。

(前書き)

会話がほとんどなく、見にくい話になってしまいました。それでもいいという方、読んでくださると嬉しいです。

道端に咲いた花をみて、愛しさを感じた。嫌いなはずの雨降りも、憂鬱な休日もいいと思った。

いつもは気にもしない好きに思ったりしないのに、貴方への想いに気付いただけでこんなにも世界が美しく尊く感じた。毎日が楽しくて自然と笑みも溢れる。

「恋をすると変わる」

っていうのは本当みたいで、いつもいつでも貴方を想っていた。

きっかけはほんの一瞬、一目みただけで気になるようになってしまった。名前も住んでる所も知らない、いつも窓際で外を見ていることだけしか知らない。気になって見ていただけなのに、いつの間にか好きになってしまっていた。

私達の距離はとても遠い。たまたま同じ建物にいて、同じ空間にいるだけ。

「どうか、少しでも近づけますように…」

でも見ているだけは嫌で。

神様にも何度もお願いした。占いもおまじないも試した。可愛くならうと努力もした。

「新藤さん」

貴方に呼ばれ振り向く私。やっと縮まった貴方との距離。

笑顔を見る度に締め付けられる胸、貴方に呼んでもらえるだけで自分の名前が宝物になる。

貴方に私を知って欲しくて、貴方にも私と同じ気持ちになってもらいたくて…。

周りが見えなさすぎたのかな？

ある日街でみた、貴方と一緒に歩いてる、貴方の“大切なひと”。

貴方のこと何も知らないのに、なんで“大切なひと”だかわかったかというと、貴方を見る彼女の目を見たから。貴方も彼女も同じような目でお互いを見てた。

二人で手を繋いで歩く姿は私が思い描いてたもので、でも貴方の“隣”は私じゃなくて。

「……………！！」

私は走った。

雨が降ってきたけど、とにかく走った。

幸せな貴方を見るのは、私じゃない誰かといって幸せそうな姿を見るのは嫌だ。

私を一番に見て欲しかった。

降り続く雨、濡れて重くなる服と心。雨に頭を冷やされ私は気づく。

「私達は付き合ってる訳じゃない…」

そう、貴方は私に話しかけてくれた人。誰も付き合うなんていってない。

「…つく」

わかってはいたけど、貴方の一番になれないってわかると悲しかった。でも人を想うこの気持ちを知った私は幸せだと思う。今の切なさとの距離が縮まった時の嬉しさ、輝いていた毎日を次への肥料に。

今、この瞬間だけ貴方を想わせて。締め付けられる胸の痛みも、今だけ噛み締めさせて。

想いはちゃんと胸にしまってから、貴方を困らせないから。

頬を伝うのは雨なのか涙なのか。

いつの間にか街には野良猫と私だけしかいなくて、ずぶ濡れたまま時間を忘れて空から降り続く雨を見ていた。

（後書き）

最後まで読んで下さり、ありがとうございます！感想など下さると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5695a/>

うたかたの恋

2010年10月11日02時18分発行